

単 位 数	教 科 担 当 者	使用教科書・補助教材・その他
2	中村 美知枝	高校生の美術 I （日本文教出版）
必 履 修 学校必履修 ○必修選択 自由選択		

#### ◆学習の目標

- ・美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質能力を育成する。

#### ◆主な学習内容・方法

- |            |              |
|------------|--------------|
| (1) 色彩学習   | (5) 外苑風景 制作  |
| (2) デザイン学習 | (6) 自分の思いを表す |
| (3) 立体作品制作 | (7) 鑑賞       |
| (4) 着彩の技法  |              |

#### ◆到達目標と観点別評価の評価規準

- ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表す。
- ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し、構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める。
- ・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

##### 〔観点別評価の評価規準〕

##### ○知識・技能

- ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表そうとしている。

##### ○思考・判断・表現

- ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めようとしている。

##### ○主体的に学習に取り組む態度

美術の表現及び鑑賞の幅広い創造活動に主体的に取り組もうとしている。

#### ◆年間予定授業時間

予定時数	70 時間	1 学期（26 時間）	2 学期（28 時間）	3 学期（16 時間）
------	-------	-------------	-------------	-------------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

- ・ 予測困難な社会に対応する力として、題材に対して自分なりの問いを立て、解を求める力の育成を大切にしている。
- ・ 知識・技能に加え、発想・構想する力の育成を目指している。図と地の関係のように、物事を逆の方向から見たり、多面的に捉えたりすることを求めている。それは簡単なことではないが、主体的に取り組むことが大切である。
- ・ 日々の生活の中にある美しさや楽しさに気づくことがよい制作につながる。
- ・ 課題は完成させ、期限までに提出すること。忘れ物をしないこと。

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	単元 ごとの 時間数	学習の内容	学習到達目標
1 学期	4	色彩学習	2	色の三属性の理解と応用	伝わるデザインの発想・制作
	5	「驚き」をデザインするカード制作	10	伝達デザインの基礎	意図に応じた色彩計画
		鑑賞	1	発表と鑑賞	作品の多様性とそのよさに気づく。
	6	デッサン	2	鉛筆デッサンの技法	鉛筆の使い方
	7	立体作品制作	10	塑像による立体作品制作	自分の形をイメージし、立体作品に表す。
		鑑賞	1	発表と鑑賞	
2 学期	8	着彩練習	5	絵具による混色と実際	意図に応じて絵具を使い作品に表す。
	9	外苑の風景制作	14	意図に応じた構図や色彩の工夫	意図が伝わるように、形と色で作品に表す。
	10	鑑賞	1	作品の鑑賞	
	11	自分の「想い」を形にする	8	形と色で想いの伝わる表現を構想する	作品の多様性とそのよさに気づく。
	12				
3 学期	1	自分の「想い」を形にする（つづき）	13	形と色で想いの伝わる表現を構想する	意図が伝わるように、形と色で作品に表す。
	2	鑑賞	2	発表と鑑賞	作品の多様性とそのよさに気づく。
	3	映像基礎	1	映像表現の基礎と実際	映像基礎技能の習得